# 令和５年度　江戸川区立小岩第四中学校　学校関係者評価　年度当初・中間報告書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学校教育目標 | 明るく、心身ともに健やかで　ひとりだちのできる心の豊かな人間の育成<br>・自主 自ら学び、考え、正しく判断して、責任をもって行動する<br>・品位 礼儀正しい態度と丁寧な言葉から生み出される人間としての内面の美しさ<br>・明朗 明るい笑顔ですべての人の幸せをつくり出す<br>・友愛 思いやりをもってすべての人に優しく温かく接する | 目指す学校像<br>目指す児童像<br>目指す教師像 | ・活気にあふれ、常に生徒の明るい声が聞こえる学校 ・安全・安心で、すべての生徒が生き生きと活動できる学校・生徒が学ぶ楽しさを味わい、生きる力を身に付けることができる学校・伝統を重んじて継承し、同時に常に新しい挑戦を続け進化し続ける学校・生徒・保護者・地域に信頼され、共に歩む学校 ・生徒が学びやすく教師が教えやすい環境づくりに努める学校<br>・校訓や生活指導指針「お(思いやり)ろ(身だしなみ)そ(挨拶)あ(あいさつ)じ(授業)」を自ら実践する生徒・基礎的な知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を身に付けようと主体的に努力する生徒・他者の意見を取り入れながら、自分の意見を自信をもって他人に伝えることができる生徒・互いに尊重し合い、思いやりの心をもって人間関係を築ける生徒<br>・自己研鑽に励み、互いに高めあう教師・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・主体的に、熱意をもって教育に真摯に向き合う教師・公務員としての自覚ともち、服務の厳正に努める教師 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | ＜成果＞新学習指導要領に沿った授業についての研修を実施。ICTの有効的な活用を実施した。不登校生徒対策をSSWの協力を得ながら、対応できた。図書館の整備を実施し、図書館利用する生徒が増加した。１人1台端末を活用した教育の推進ができている。新聞の閲覧者が増加した。いじめ撲滅宣言により、いじめに対する意識向上が図れた。<br>＜課題＞新学習指導要領に沿って、全ての教育活動を通して主体的・対話的で深い学びを追求し、基礎的の知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。各教科の授業の中で、話し合い活動や発表の機会を設け、自身の意見・考えを発信する表現力を養う。家庭学習の習慣化。不登校生徒対策。 | | |

| 教育委員会重点課題 | ＜取組項目＞ ・評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | 年度末に向けた改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 取組 | 成果 | 成果と課題 | 評価 | コメント | |
| 学力の向上 | ＜学力の向上＞<br>・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 | ・年6回の研究授業・授業参観週間や研究協議による授業改善<br>・各教科指導において、解決型授業展開の実施。主体的・対話的で深い学びの実施<br>・基礎基本の定着を図るための演習と復習プリント・問題集・ミライシードの活用 | ・全教科で学びあい・教えあいの活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実践する。<br>・授業が分かりやすい、楽しいと思う生徒の率が9割以上<br>・ミライシードの活用で演習に自主的に取り組む生徒7割以上<br>・スタディウィークを年間3回実施 | A | B | ・オクリンクを活用した授業展開により、話し合い活動が促進できている。<br><br>・ミライシードを活用したスタディウィークを定期的に実施できている。この結果、生徒全員が実施できている。ただし、習慣化にするには課題がある。 | A | ・授業態度が良く、集中している。<br>・ICTを活用した授業が展開され、時代を感じる。生徒も対応できている。 | ・オクリンクを活用した授業展開をすべての教員ができるように研修を深め、活発な話し合い活動を充実させる。<br><br>・ミライシードを活用した、自主学習を定着させ、学力向上に努めさせる。 |
| | ＜読書科の更なる充実＞<br>・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 | ・図書館の活用及び読書科における成果物の作成<br>・各教科で図書館を利用した学習計画を作成 | ・読書科における成果物の作成および発表<br>・図書館を利用した学習において理解が深まった生徒が8割 | B | B | ・読書科における成果物の作成および発表を3学期に予定している。<br>・図書館を利用した学習において理解が深まった生徒の調査は3学期に実施する。 | B | ・読書科における成果物の作成および発表については、後日、参観する。 | ・全学年で読書科における成果物の作成し、展示会で発表させる。<br>・図書館を利用した学習が各教科とも計画はあるが、実施までできていない教科があるので、推進する。 |
| 体力の向上 | ＜運動意欲や基礎体力の向上＞<br>・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 | ・補助運動を毎授業で実施<br>・食育、給食指導の充実 | ・体力が向上した生徒が9割<br>・食育を通して食への理解を深めた生徒が9割 | A | A | ・体力テストの結果、体力が向上した生徒が7割以上いる。<br>・給食前に、本日の献立を確認し、学習することにより、食育を通して食への理解を深めた生徒が多数いる。 | B | ・校庭で、部活動に励む生徒をよく見ている。体力向上に努めているのが分かる。<br>・給食時に本日の献立を読むことにより、食への理解を深めている活動は、生徒にとってよい効果が期待できる。 | ・体力向上は順調に行われているので、持続する。<br>・給食前に、献立を確認し、学習することは、食育の一環として定着しているため、今後も継続する。 |
| 共生社会の実現に向けた教育の推進 | ＜特別支援教育の推進＞<br>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実<br>・エンカレッジルームの活用促進<br>・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 | ・特別支援委員会を隔週で開催<br>・SCによる校内研修<br>・話し合いの中で、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の仕方<br>エンカレッジルームの効果的な活用 | ・特別支援を必要とする生徒の不登校ゼロ<br>・誰ともつながりのない不登校生徒0人 | A | B | ・特別支援委員会を月2回実施し、不登校生徒の情報を共有し、対策を考え対応している。しかし、不登校生徒は20名いるので、対策を講じる。<br>・ユニバーサルデザインを意識した取り組みを行っている。教員にアンケートを実施し、本校で特に取り組みが足りない点を明確にし、テーマを決めて、全校での取り組みを計画している。 | A | ・不登校生徒に対して、毎月2回、特別支援委員会を行い、対応していることが分かり、学校の取り組みに納得できる。<br>・ユニバーサルデザインを意識した取り組みをしている。 | ・不登校生徒に対する対応として、SSWの支援をお願いできるように、SSWの介入を保護者から許可をとり、学校との繋がりを強化し、学校への登校を実現する。<br>・ユニバーサルデザインに関する学校の課題を1つ絞って、具体的に取り組むテーマを決める。 |
| 子どもたちの健全育成 | ＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞<br>・不登校対策の実施・充実<br>・教育相談の強化<br>・hypaer-QUの活用 | ・家庭と連携し、ネット犯罪やネットいじめの防止を図る<br>・生活習慣のアンケートを年5回実施<br>・いじめ撲滅運動の意識を高めるために、各学級でもいじめについて討議 | ・ネット利用上のルール・マナーを守っている生徒が9割以上<br>・生活習慣が整っている生徒が9割以上<br>・いじめ撲滅に対する意識が高まる生徒が9割以上 | A | A | ・ネットについての注意喚起を行うと共に、使い方の注意を各学年で周知、指導を丁寧に行っている。<br>・生徒の自主性が育っている。規範意識を自らの判断で高めていく指導を行っている。<br>・生徒会中心とした、いじめ撲滅宣言を実施し、いじめに対する意識を高めることができている。 | A | ・ネット利用上のルール・マナーに関して、学校での指導等を説明していただき、安心する。<br>・廊下で生徒と会うたびに挨拶がしっかりでき関心する。<br>・生徒のいじめ撲滅に対する意識を高める取り組みは今後も継続してほしい。 | ・タブレットの活用に関しては、持続的な指導を続ける。<br>・教員の指導に従う形ではなく、生徒の自主性を育てる方向で、規範意識をもち、自らの判断ができる生徒を育成する。<br>・いじめに関しては、いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期解決に努める。 |
| 地域に広く開かれた学校（園）の実現 | ＜自校（園）の取組の積極的な発信＞<br>・学校（園）ホームページの充実等<br>・学校（園）公開の実施・充実 | ・学校公開週間（9/2～9/6）、土曜公開授業年間4回、三者面談年2回実施<br>・9月に小学6年生対象体験授業・部活動体験実施<br>・学校だより月1回の発行<br>・学校HP毎週1回更新 | ・学校公開等、保護者参加8割以上<br>・9月に体験授業・部活動体験　小学生の参加9割以上<br>・関係諸機関との素早い報告・対応9割以上<br>・学校だより月1回の発行実施<br>・学校HP毎週1回更新実施 | A | A | ・行事の保護者参加数は8割、学校公開等については5割であり、対策が必要である。<br>・9月に体験授業・部活動体験を実施し、地域の小学校の児童が参加した。<br>・関係諸機関との報告・対応がしっかりできている。<br>・学校だよりを月1回発行している。<br>・学校HPを毎週1回以上更新している。 | A | ・コロナが5類になり、学校公開の保護者参加が多くなっている。<br>・毎月の学校だよりに感謝している。学校の様子が分かり、助かる。 | ・学校公開等、保護者の参加は多数あったが、学校評議員や、町会長等の参加を推進する。<br><br>・学校HPの活用を、学年にも広げる。 |
| | ＜学校関係者評価の充実＞<br>・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 | ・学校公開日での参観実施<br>・学校行事等の参観実施<br>・回答しやすい項目の改善 | ・生徒の学校目標に対しての取組・意欲等の評価が良いを8割以上<br>・回答項目で、分からないという項目が0 | A | B | ・周年に対する、生徒の取り組みは立派であり、スローガンの設定や、階段アートなど、生徒の自主性が発揮されている。<br>・学校関係者の方々に対して、学校側からの説明を丁寧にし、分からないという項目が無いように努力している。 | A | ・生徒の挨拶がしっかりしていて「おみそあじ」がしっかりできていることを感じる。<br>・実際に授業で参観する機会が足りないので、質問事項に対し回答するのが難しく感じる。 | ・学校公開日などでの参観だけでは、学校関係者の方々が評価をするのが難しいので、日頃からの参観も推進し、ご助言をいただけるような関係を築けるよう努力する。 |
| 特色ある教育の展開 | ＜主体的・対話的で深い学びの研修・実践＞<br>・思考力・判断力・表現力を育成する授業の実践<br>・指導法や教材の工夫・改善を図り、基礎学力の定着を目指した授業の実践<br>・1人1台端末を使用した授業展開 | ・教員同士の授業参観・意見交換<br>・校内研究授業の実施<br>・ICT研修を行い、工夫した授業展開を実施 | ・年6回の校内研究授業実施<br>・ICT研修を年間3回実施 | A | A | ・計画通り校内研究授業を実施している。<br>・校内研究授業を全教員で参観する形に変更し、教員同士の授業参観は、できている。 | A | ・生徒のために、研修に励んでいる。 | ・校内研究の充実や、変革ができたので、この形を継続する。できれば、専門性のある講師をお招きして、ご指導・ご助言をしていただき、研修を深めることも今後考える。 |
| | ＜外国とのつながる生徒への支援・国際理解教育の充実＞<br>・日本語学級設置校としての特色を生かし、日本語教育、英語教育、国際理解教育を充実させ、世界で活躍する人材の育成を目指す。<br>・日本語の指導法についての研修を実施し、日本語や日本文化、教科の指導を継続的に行う。 | ・ルビ振り、電子辞書の活用等の合理的な配慮の実施<br>・進路説明会や面談、在籍校訪問等による在籍校との連携 | ・進路説明会、面談、在籍校訪問の実施 | A | A | ・進路説明会、面談、在籍校訪問等を計画に沿って実施していく。 | A | ・日本語学級の教員が、丁寧に対応し、入試の問題を繰り返し指導している。また高校の紹介も行っている。 | ・受け入れる生徒が、2学期以降から増え始めているため、1対1の授業だけではなく、少人数授業を実施している。日本語学級担当教員の増員が必要である。 |